

平成28年度  
ボランティアコーディネート等に係る  
社会福祉協議会と社会福祉施設の連携状況調査  
【集計・分析】

【Ⅰ 調査の目的】

本調査では、ボランティア受入を希望する福祉施設、事業所などがボランティア活動を希望する団体・個人へのコーディネートを円滑にできるように市町村社協ボランティアセンターとの連携促進を支援していくことを目的に実施します。

【Ⅱ 調査対象】

41市町村社会福祉協議会

【Ⅲ 調査期間】

平成28年6月29日～7月15日

【Ⅳ 調査内容】

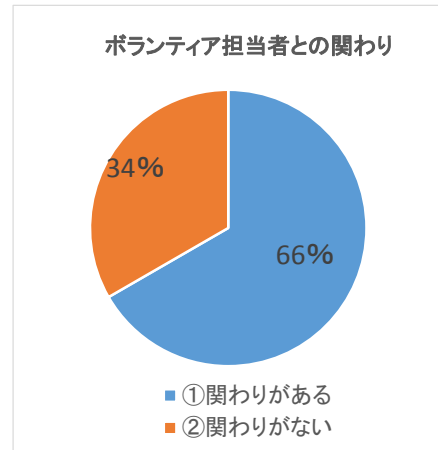
- ①社協における施設との関わりについて
- ②施設との関わり内容について
- ③施設と関わるうえでの課題や工夫について

【Ⅴ 回収率】

41社協／41社協回答(回答率100%)

問1. 貴社協において、社会福祉施設のボランティア担当者との関わりはありますか？

	回答数	回答率
①関わりがある	27	66%
②関わりがない	14	34%
合計	41	100%

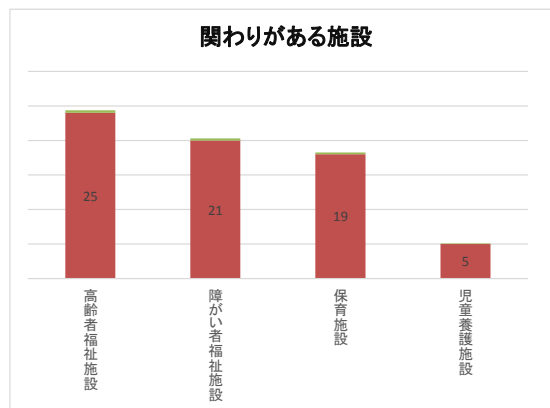


39社協のうち26社協(約7割)が社会福祉施設のボランティア担当者と関わりがあるとの回答が得られた。

問2. 問1で「関わりがある」と回答した社協へ、どのような施設と関わりがありますか？(複数選択可)

n=27

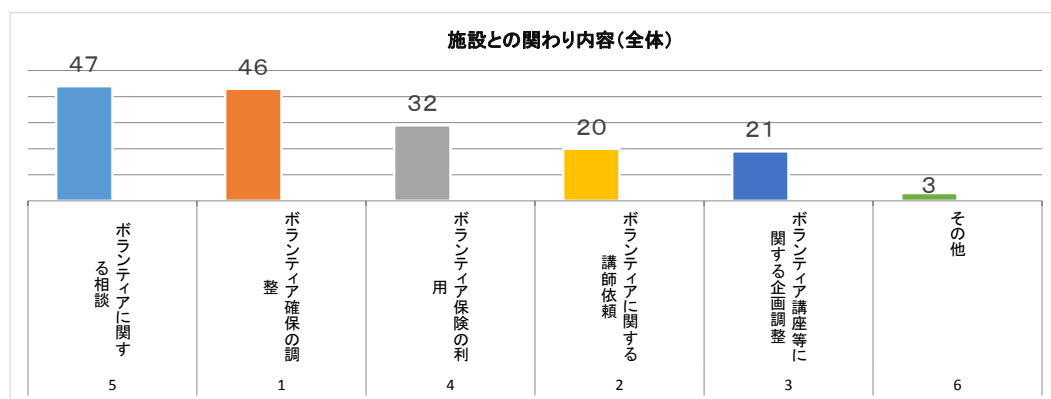
種別	回答数
高齢者福祉施設	25
障がい者福祉施設	21
保育施設	19
児童養護施設	5



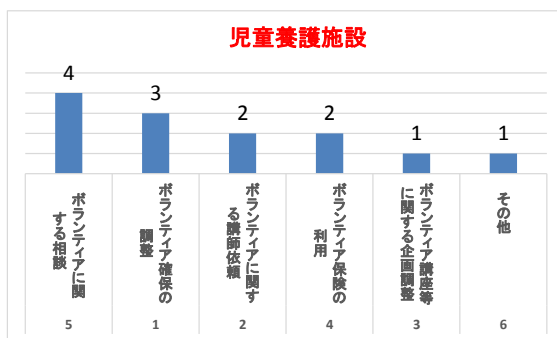
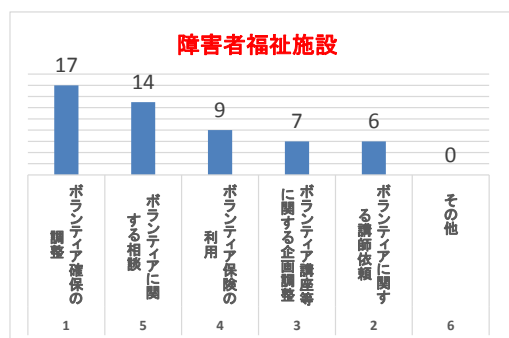
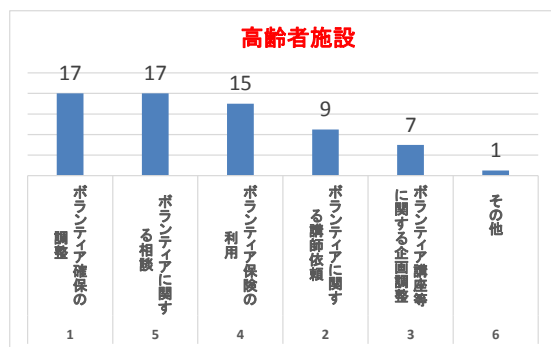
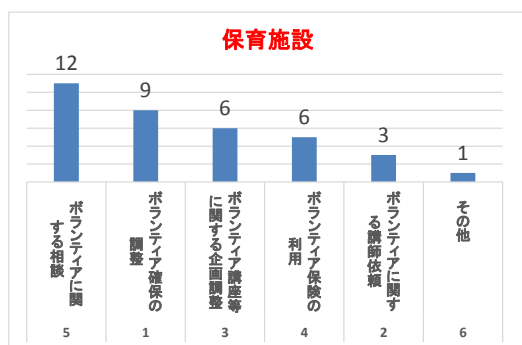
問1で「社会福祉施設と関わりがある」と答えた27社協へ、どのような施設と関わりがあるかを聞いたところ、高齢者福祉施設で、27社協のうち25社協と殆どの社協が高齢者施設と関わりがあるとの回答が得られた。また、障がい者福祉施設、保育施設においても、半数以上の社協で関わりがあることが分かった。  
 なお、児童養護施設については、所在地の沖縄市、浦添市、那覇市、南城市、宮古島市においては関わりがあることが確認できた。

問3. 問2で関わっている施設との関わり内容について選択し、施設ごとに記入してください。(複数選択可)

	内容	保育施設	高齢者施設	障害者施設	児童養護施設	全体
1	ボランティア確保の調整	9	17	17	3	46
2	ボランティアに関する講師依頼	3	9	6	2	20
3	ボランティア講座等に関する企画調整	6	7	7	1	21
4	ボランティア保険の利用	6	15	9	2	32
5	ボランティアに関する相談	12	17	14	4	47
6	その他	1	1	0	1	3



◆施設別グラフ表



施設との関わりの内容について、全体をみると、「ボランティアに関する相談」が最も多く、続いて「ボランティア確保の調整」が43%と続く。種別ごとにみても、「ボランティアに関する相談」と「ボランティア確保の調整」が高い割合となっている。

#### 問4. 施設へのボランティアコーディネート等において、課題だと感じる事、工夫していることはありますか？

##### ◆課題だと感じる事

- ・施設では既に独自でボランティアさんを確保され、本会が下手に介入できない状況
- ・職員の人材不足を補うだけになってないか？依頼後の、状況把握や次に繋がる振り返りができていない
- ・社協ボラセンの周知不足のため、ボランティアに関する相談をどこにやったら良いのか分からない施設が多数ある
- ・ボランティアに関するアンケート調査を実施し、施設の現状を把握し、スムーズなコーディネートができるようにしていきたい
- ・関わりがあると回答したが、年に1回あるかないか、そもそもあまり関わりがない事が課題である
- ・ボランティア活動を希望するが社協へ相談に来られた際に受入れ可能な施設として普段から連携を取る事ができればと感じる。現在はボランティア希望者の受入れ先として関わりがある施設は3か所程であるが、(高齢者施設、児童館、保育園) 今後は、このように関わる事ができる施設を増やし、リストアップし直にコーディネートできるようにしたい
- ・施設側が通常業務(施設ボランティア担当が決まっていない)で忙しい中、受入れ施設職員間でのボランティアへの配慮の調整が課題
- ・他事業と重なると、どうしても後まわしになったりする。地区コーディネーターにもサポートしてもらってる。※年間を通して、都度関わりがあり、その時々で内容は様々である
- ・ボランティアセンターとしての周知不足
- ・担当の職員以外にボランティアが来ることが伝わっていない。理解されていないということが時にある。どういう活動内容なのかを実際に見に行き体験させてもらうこともある。(そうすると、ボランティアにも内容を伝えやすい)
- ・ボランティアセンターとしての周知不足・個人ボランティア確保に向けての働きかけ
- ・行事保険を利用する時に相談が多い
- ・ボランティアのマッチングから活動までより関わりをもつが、活動後のふり返りや反省が十分に出来ていないのが課題
- ・ボランティアの活動希望とニーズとのズレがあり、マッチングが難しい。緊急依頼に対して対応できるボラが少なくない
- ・各施設に対して社協が出来る事沖縄県社会福祉協議会の伝達やプログラム作成等の時の情報提供や提案する能力向上が課題
- ・ボランティアをしていただく方が、固定化されている事が課題
- ・ボランティアと受け入れ先との考えの違いで、継続した活動につながりにくい
- ・単発的なコーディネートが多く、継続的な関わりができていない
- ・施設との関わりはあるが、ボランティア担当との関わりがない

##### ◆工夫している事

- ・施設側のボランティア担当者や相談・連絡調整や実際の活動を通して、顔の見える関係をつくるようにしてる。(相互に相談しやすい関係づくりを目指す)施設側のボランティアニーズを聞く。⇒年度初めに、市内の各施設へボランティアニーズ調査を行っている
- ・電話やメールでの連絡をまめに取り合う、活動後の聞き取りを行う
- ・ボランティアは地域の方に依頼し、活動終了後も関わられるようにしている
- ・ボランティアに関する相談や講師派遣・企画調整等で関わった活動を社協だより、フェイスブック等で情報発信、広報活動などを工夫したい

#### 施設へのボランティアコーディネート上の課題

##### 【社協側の課題】

社協ボラセンの周知不足という回答が見られたため、社協から施設に対して社協の役割やボランティア活動についての周知を積極的に行っていく必要がある。

##### 【施設側の課題】

職員の人材不足を補うだけになっており、依頼後の状況把握や次に繋がる振り返りができていないと感じている社協もあったため、ボランティアを活用する目的や今後もボランティアが継続できるような取り組みを進めていく必要がある。

##### 【工夫している点】

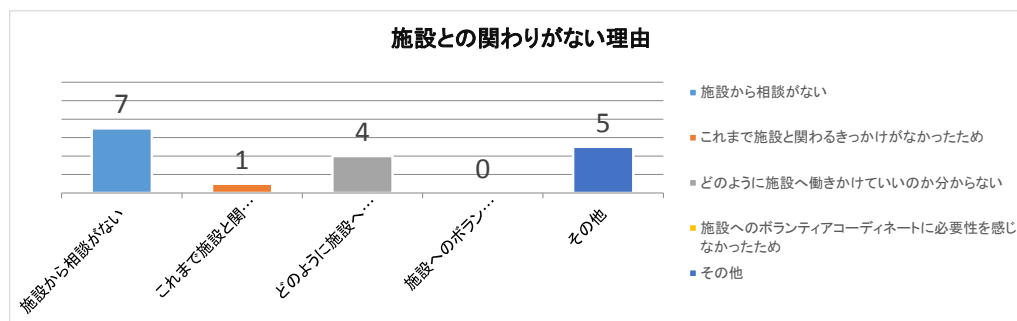
各施設へボランティアニーズ調査やボランティアに関するアンケート調査を実施することで、施設の現状を把握している社協も見受けられた。日頃から施設の状況やニーズをキャッチすることで、社協と施設とが繋がり、ボランティアのコーディネートがスムーズになると考えられる。

問5. 問1で施設との関わりがないと答えた社協へ、なぜこれまで関わりを持っていないのか？

		n=13
内容		回答数
1	施設から相談がない	7
2	これまで施設と関わるきっかけがなかったため	1
3	どのように施設へ働きかけていいのかわからない	4
4	施設へのボランティアコーディネートに必要性を感じなかったため	0
5	その他	5

(その他回答)

- ・村内の福祉施設にボランティア担当職員がいるか把握していない
- ・老人福祉施設を社協が運営しているので、必要に応じたボランティアの対応をしている。
- ・ボランティア担当のいる社会福祉施設がない。
- ・村内に福祉施設がないため
- ・保育所以外の福祉施設が村内にない



問1で施設との関わりがないと答えた社協(13カ所)に対して、施設との関わりがない理由について尋ねたところ、最も多かった回答は「施設からの相談がない」が7社協、続いて「どのように施設に働きかけて良いかわからない」が4社協となっている。その他の意見としては、「施設のボランティア担当の職員を把握していない、ボランティア担当のいる福祉施設がない」等の意見が寄せられた。昨年度実施した『社会福祉施設におけるボランティア調査』においては、各施設におけるボランティア担当者を配置している施設が約4割に留まっており、ボランティア担当を配置していない、若しくは特に担当を決めていない施設が約6割となっている。このような結果から、福祉施設にボランティア担当を置くことで、社協側からの施設へのアプローチや連携がスムーズになることも考えられるため、ボランティア担当者の配置についても是非検討を進めていただきたい。